

■ 総会の案内

年度が始まってずいぶん経つのですが、ようやく準備ができました。総会の御案内をいたします。(なお、会報とは別に詳細は別紙でお知らせします。)

期日 平成 26 年 7 月 12 日 (土)

時間 午後 1 時 30 分から

内容 総会

講演会

講師 角田美里 先生

木造和船研究者

(東北芸術工科大学歴史遺産学科卒)

演題 東北の木造和船 (仮題)

懇親会

会費 2, 000 円

その他

平成 26 年度会費を当日徴収します。よろしく願います。(3, 000 円)

講師の紹介

1989 年に山形県川西町生まれ、米沢東高校から東北芸術工科大学に進学しました。卒業研究で青森、秋田、山形県の伝統的木造和船の記録研究をおこない、その成果は東北芸術工科大学のブックレット『東北一万年のフィールドワーク 木造和船 東北篇』としてまとめられています。海で使われる木造和船の研究としてはまとまった研究として極めて貴重な研究だと思います。

たいそう若い方ですが、もうほとんど使われなくなった木造和船との出会い、そして、そのどのどところに魅力を感じたのかななども含めてお話を伺えれば幸いです。

■ 道智道・「茎の峰——萱野」間を歩く
丸川二男

この六月八日、山岳会の伊藤隆さん、史談会の加藤晃一君と私の三人で通称、道智道といわれている古道のうち、「茎の峰から萱野まで」の間を歩いた。この区間は茎の峰までは黒鴨から、反対側の萱野には一ツ沢の林道を通って行けるが、中間の部分は誰も歩いたことがなく、どうなっているかわからない箇所であった。

この日は黒鴨からトラックで茎の峰まで上り、三山の参詣の古道であった山中に入った。ここは私たちが昭和五十四年の秋に、白装束に草鞋がけで歩いているところでもある。それから約三十年あまりの歳月の間に、三山参りの習俗もすたれ、炭焼きや狩猟などで歩く人もなく、萱野の集落もなくなり、やがて廃道と化したのである。



道の傍らには杉の大木が立っている

峰を越えて山の中に入ってしばらくは、周囲の雑木や笹竹が茂っているものの道形がはっきりと見える状態だった。途中の道標とした杉の大木も見つけることができ、勇んで先に進んだのもつかの間、急に視界が開けて林道のような所に出たとたん、見えていた道形もなくなってしまった。

ところどころに斜面を切り崩したようなところもあり、杉の切り出した作業道路か、林道を作ったものの途中で放置されたような跡である。いずれにせよ大型の重機が歩いたような道巾で、その跡に新たに雑木や草木が生い茂っていた。こうなると元の道がいったいどこにあるのか、たどるのが実に難儀である。三人とも声を掛け合いながら、やぶの中をしばらくあちこちに歩き回った。



沢を渡って道を探す

前に来た時はむろん初めての道だったが、このあたりで苦勞した記憶はない。それに杉の大木の根元を回って下ればよいという古老の話を聞いていたので、道を下りながら杉の大木を探すこともできたが、今回は周囲の杉が大きくなって見通しがきかず、大きな杉がなかなか見えないのである。また、この三十年余の間に何回もあったであろう大雨や災害が沢をえぐり、土砂くずれを起こしては地形を変えたのであろう。道が寸断されているのはそのせいで、今回は以前には通らなかつたような沢を二箇所渡った。

それにしても圧巻なのは旧道の道標でもある杉の大木である。その姿は太さだけでなく、周りの杉とはまったく違った枝振りで、長い時間をきびしい環境の中で生きてきたことを示すもので、まさに神が宿るような姿であった。その数は帰りに数えたら27本あった。この種の杉の大木は私たちの周辺の神社や仏閣でも見ることはできるが、この山中でのまとまった数はめずらしく、古くからの信仰の道であればこそそのものだろう。

ちなみに茎の峰には「南無阿弥陀仏」、萱野の集落跡には文政五年の「湯殿山」や、「庚申塔」の石碑などを見ることができただけでなく、近くに「茅野分線・昭42」という標識のある電柱が残っていた。地図ではたいてい「萱野」と表記されている。ただし、この萱野までの道は相当に荒れており、容易に入山できない。萱野から先道の調査には、そうとうの準備をしなければならぬと考える。木川に直接下る道の調査は今後に残されたままである。(写真は加藤君の提供による)

■ いくつかのお知らせ

1 田勢康弘講演会

講師 田勢康弘氏 ジャーナリスト
 演題 「安倍政権展望」そして
 「島倉千代子という人生」
 期日 6月24日(火) 午後7時から
 場所 パワーセンター白鷹
 (白鷹町産業センター)
 入場無料ですが整理券が必要です。
 申込先 白鷹町教育委員会へ

2 浅井慎平講演会

講師 浅井慎平氏 カメラマン
 演題 「空の青、大地の緑、紅の赤、そして
 白い山 ふるさとの色と心」
 期日 7月9日(水)
 場所 白鷹町文化交流センター
 「あゆむ」

入場無料ですが整理券が必要です。

申込先 白鷹町教育委員会へ

平成26年度白鷹学講座 パート2 / ペにばなアート展 虹花 colors

「空の青、大地の緑、紅の赤、
 そして白い山 ふるさとの色と心」

日本を代表する写真家 浅井慎平氏が、紅花の季節を迎える白鷹町にやってきました。彼の瞳に、わたし達のふるさと白鷹の風景はどのように映るのでしょうか。白鷹町出身・田勢康弘氏とのトークショー形式でおくる、楽しいひとときです。

浅井慎平 講演会

平成26年
7月9日 (水曜日)
 白鷹町文化交流センター
「あゆむ」 開演：午後7時
 (開演：午後6時30分)

【浅井慎平(あせいしんぺい)略歴】1937年、陶芸の街・愛知県瀬戸市に生まれる。早稻田大学政治経済学部在学中に映画作家志してシナリオを書き、撮影所に通っていた。学園祭のパンフレットのカバーのために写真を撮ったことで、写真の面白さに気づく。グアム島の日常風景を写した「ストリートフォトグラフィ・ビートルズ・東京」の写真集で、独自の視点が目ざされ、デビューを果たした。

その後、チャック・ベリーの影響で東京アートディレクターズクラブ経営者など変遷。写真表現の他に文芸、音楽、映画、工芸など、さまざまな分野でも活躍している。レーヴ・リサーチ・アソシエーツ・プロモーション・ジャパンではゴールドデザインディスク賞を受賞した。1991年5月、千葉県千葉市で「海岸美術館」を設立。地味な道徳問題に関心を持ち、主として本道や歴史的視野からの風景などを撮影し、シンポジウム、テレビジョンにも積極的に参加、時代に新しい風を送っている。

■整理券取扱い
 白鷹町教育委員会・白鷹町中央公民館・各地区公民館・白鷹町観光協会・白鷹町文化交流センター あゆむ
 主催：白鷹学講座企画委員会、白鷹町、白鷹町中央公民館、白鷹町観光協会、白鷹町教育委員会
 問合せ 白鷹町教育委員会 生涯学習・文化課関係 TEL0238-85-6146

入場無料
 整理券が必要です。

3 平成26年度文翔館収蔵品展 「うつわ いろいろ」

平成26年度文翔館収蔵品展

うつわいろいろ
 ～和食とともにある器たち～

文翔館に収蔵している資料のなかから、「うつわ」をキーワードにえらびだしたものを展示します。器を通じて日本人の持つ美意識を探ってみませんか？

氷水皿 指等 片口

入場料
 無料

平成26年 7月4日(金)～8月13日(水)
 (休館日)7月7日(月)・7月22日(火)

時間 午前9時～午後4時30分 (ただし8月4日(日)～13日(水)は午前9時～午後3時30分)

会場 文翔館2階ギャラリー
 主催 公益財団法人 山形県生涯学習文化財団

【オープニングセレモニー】平成26年7月4日(金)午前10時から ギャラリー6

お問い合わせ 山形県製土館(文翔館) 〒990-0047 山形市弥生町3-4-51 TEL023-636-6500